





# 被災教会会堂等再建支援に向けて

## 「能登半島地震」被災教会会堂等再建支援委員会 継続



被災教会会堂等再建支援委員会  
後列左から、愛澤(担当幹事)、高橋、佐々木、小宮山、前列左から、津村、大杉、長山、原田

第35総会期に引き続き第36総会期の「能登半島地震」被災教会会堂等再建支援委員会(以下、委員会という)の委員が第一回常議員会(二〇〇八年十二月八日、九日)で選任され、第一回委員会が、二月九日教団会議室で開催された。

常議員会で選任された委員は、長山信夫、原田謙、佐々木美知夫、大杉弘、津村正敏の五名である。最初に組織会を行い、委員長に長山委員、書記に大杉委員を再任した。続いて事務局より前回委員会以降の活動について、

また、現在の募金状況、会計報告があり募金状況は一億一千二百万円強であり、その内六千五百万円弱が再建された会堂等に送金されていることが報告された。次に陪席した中部教区、能登半島地震被災教会再建委員会の小宮山剛委員長より現在の再建状況について、輪島教会会堂補修、牧師館改築が完了したこと、

三月十七日に羽咋教会富来伝道所の献堂式が行われること、七尾教会、羽咋教会の改築計画の状況等についての報告があった。続いて高橋潤中部教区議長より中部教区で扱っている支援献金会計の状況についての報告がされた。

以後、協議に入り、中部と現状報告等の挨拶をする

## 厳しい経済状況の影響を念頭に

### 予 算 決 算

第36総会期第一回予算決算委員会が、二月十二日、十三日の両日にわたって、教団会議室で開催された。招集者・伊藤瑞男委員長による開会挨拶、各委員及び教団総幹事、総務幹事、財務幹事の自己紹介に続き、互選により委員長・伊藤、

常任委員・寺門文男、書記・外崎孝を選出し、議事日程を事務局の提案通り決定して協議に入った。まず、内藤留幸総幹事より非常に厳しい経済状況が個教会の財政にも影響を及ぼすであろうことを念頭に予決算委員会も活動をして

欲しい二〇〇八年度収支は全体として良いバランスを保っている。職員退職金制度変更の移行期にある各種の預り金の適正な措置を視野に入れて欲しい。出版局、年金局共に厳しい状況である、等の報告があった。愛澤豊重総務幹事、計

計良幹事より「前総会期委員会を取り上げられた主な課題」の報告が行なわれ、特に教区負担金賦課方式の検討、別口勘定、活動資金勘定等の整理と会計の明瞭化、教団三局やセンターの包括的管理体制作り等の諸点が説明された。その後、教団50年データ分析と今後への提言を鑑賞した。

予算決算委員会 後列左から、計良(担当幹事)、愛澤、小平正宣、山上清之、大川(職員)、長島恵子、寺門、前列左から、外崎、内藤(総幹事)、伊藤、稲垣正策

支援募金状況(支援募金明細一覧)二ユース(第三号)の発行、能登半島地震支援二ユース第四号を教団総会に向けて発行したこと、二〇〇八年クリスマスにむけて支援募金のお願いのポスターを作成、教団諸教会・伝道所に配布した等の報告があった。

教区再建委員会から求められた支援募金の支出を承認するとともに、次回委員会に七尾教会、羽咋教会の再建の詳細な計画内容を出してもらおうと依頼した。また前年に続いて中部教区として二〇〇九年度の諸教区総会を訪問し、支援の感謝と現状報告等の挨拶をする

との報告を受けた。次に諸教区総会前に向けて能登半島地震二ユース第五号を発行することとし、その内容について協議し、原稿執筆の分担を決めた。第二回委員会は六月二十九日、教団会議室で開催の予定。

良祐時財務幹事も退職金制度変更、運用基金等について報告した。二〇〇八年度月次会計報告に続き第一次補正予算案については最重要課題の一つとして計良財務幹事より、総会費、人件費等を中心に説明を受け、協議を行なった。原案の一部修正を経て第二日目に承認することを決定した。

第二日目はまず、前日の協議に基づき、第一次補正予算案を承認した。続いて「主な課題」の協議を行なった。特に負担金賦課方式については最重要課題の一つと位置づけ、小委員会を設けて継続的に検討して行くこととなった。

今後の日程として、次回決算のために六月八日、九日の両日開催すること、全国財務委員長会議を九月十四日(月)、十五日(火)に開催し、その前後に予決算委員会を行なうこと等を決定して、閉会した。

(外崎孝報)



世界宣教委員会  
後列左から、上田(担当幹事)、稲松、村山、岡村  
前列左から、久世、木下、秋山

## 世界宣教のもとに六委員会

### 世界宣教

第36総会期第一回世界宣教委員会が二月六日に教団会議室において開催された。今期の委員は木下宣世(招集者)、秋山徹、岡村恒藤吉求理子、村山盛芳、久世(宣教協力学校協議会)、稲松義人(日本キリスト教社会事業同盟)の七名である。

まず委員会の組織がなされ、委員長に木下、書記に村山、実務委員に秋山が選ばれ、この三人が常任委員会を組織することが承認された。

前総会期に大幅に委員会組織が改定され、世界宣教委員会のもとに韓国協約・スイス協約・台湾協約・国際関係・宣教師人事・宣教師支援に関する六委員会が設置された。それぞれの委員会が具体的な働きをなすことと同時に、今後の働きのために必要な規則などの整備に多くの時間が費やされた。これからは、委員会の活動ひいては教団の世界宣教に関する見解を見直すためにどのように進めて行くのかについて昼食をはさんで懇談の時を持った。

第36総会期第一回台湾協約委員会が二月九日(月)から一〇日(火)にかけて、会津坂下教会と若松栄町教会を会場に行われた。今期招集されたのは前期からの継続で、村山盛芳委員(浪花教会)、李孟哲委員(東京台湾教会)、高橋真人委員(会津坂下教会)の三名。その中で組織を行

き、委員長に村山委員、書記に高橋委員が選任された。○八年度委員会計決算及び○九年度会計予算に関する件は、幹事からの説明を受け承認可決。四月二日から三日にかけて大阪台湾教会を会場に行われる「第12回日本基督教団と台湾基督教長老教会との教会協議会」について、案内文およびプログラムの検討を行った。今回は台湾基督教長老教会(PCT)からの強い要望により、各教区には信徒代表の派遣が求められている。特に覚えておきたい。特に覚えておきたい。特に覚えておきたい。

「Love Taiwan Mission 2009」の参加要請について協議、在日台湾教会の青年がPCTのプログラムに参加し学びと交わりを得ることの意味を受け、日本人青年を含めた

要があることを確認し、総幹事名でこの祈りの課題とそれに対する教団のレスポンスを表明するように働きかけることが決議された。次回委員会は三月四日から五日にかけて浪花教会で開催し、主に教団とPCTとの教会協議会の事前準備を行う。(高橋真人報)

台湾協約委員会  
於：会津坂下教会  
左から、上田(担当幹事)、村山、李、高橋

## 新組織を整え、諸委員会活動開始

をしなければならぬ人事を含む事柄と、丁寧な議論が必要な宣教師内規など多くの課題があることが確認された。海外にある日本人教会の困難は、出身教会の背景が異なるために会員により教会観にばらつきがあることだとも話合われた。議事では、六委員会の人事を継続性・地域性・語学力を考慮し決定した。

## PCTとの教会協議会に信徒の派遣を

### 台湾協約

その後、世界宣教委員会報告、常議員会報告を担当幹事から受け、協議に入った。主な議事は次の通り。○八年度委員会計決算及び○九年度会計予算に関する件は、幹事からの説明を受け承認可決。四月二日から三日にかけて大阪台湾教会を会場に行われる「第12回日本基督教団と台湾基督教長老教会との教会協議会」について、案内文およびプログラムの検討を行った。今回は台湾基督教長老教会(PCT)からの強い要望により、各教区には信徒代表の派遣が求められている。特に覚えておきたい。特に覚えておきたい。特に覚えておきたい。

「Love Taiwan Mission 2009」の参加要請について協議、在日台湾教会の青年がPCTのプログラムに参加し学びと交わりを得ることの意味を受け、日本人青年を含めた

要があることを確認し、総幹事名でこの祈りの課題とそれに対する教団のレスポンスを表明するように働きかけることが決議された。次回委員会は三月四日から五日にかけて浪花教会で開催し、主に教団とPCTとの教会協議会の事前準備を行う。(高橋真人報)

要があることを確認し、総幹事名でこの祈りの課題とそれに対する教団のレスポンスを表明するように働きかけることが決議された。次回委員会は三月四日から五日にかけて浪花教会で開催し、主に教団とPCTとの教会協議会の事前準備を行う。(高橋真人報)



# カルト被害終息せず益々深刻に

## 統一原理問題東京地区学習会を開催

統一原理問題東京地区(東京教区、西東京教区)連絡会学習会が二〇〇九年一月三〇日(金)、教団会館に於いて開催された。今回は、東京地区だけでなく他教区他教派にも呼び掛けたため、東北教区、カトリック中央協議会、聖公会、日本ルーテル教会、日本バプテスト連盟からの参加者も得て、出席者一九名を数え盛況であった。



講演する山口広弁護士

最初に吉田好里牧師(世話人代表)より挨拶と集会の趣旨説明が以下のようにあった。連絡会による二ヶ月に一度の定期的な相談活動も既に二〇数年が経過したが、その間、相談者が来なかった日は一度もなく、むしろ最近増加傾向にあり、カルトの被害は終息せず、益々深刻になっている現状である。その間、連絡会構成メンバーの高齢化もあり、改めて、今日の統一協会の活動による被害状況を多くの人に知ってもらい、救出の取り組みと相談者の裾野を広げていきたい。そのためには、カルト被害者の悩みを 聴くことが大切であり、それは誰にでも出来る。特に解決が長引く家族と寄り添い、支え続けていくことが求められている。

また、救済生弁護士より、現在、心の悩みを抱えている人は非常に多く、カルトはそこに引っかき込まれる者が増えている。教会や寺院は人の悩みを 聴く社会的責務があると思う。法曹界では、自分のような若手が先達の後継者として養成されてきているので、教会も頑張ってください」との激励を受けた。

### 四国教区 互助は、伝道の武器

野村忠規

四国と言えば互助、互助と言えば四国。四国教区は四〇数年たひたすら、互助を教区の最重要課題として取り組んで来た。それは、現実に教区内に伝道の困難を抱える小教会が多いから、協力しなれば立ち行かないからだ。しかし、この四〇数年の歩みは簡単ではなかった。まさに「荒野の四〇年」とびたび危機を体験した。

しかし、その度に皆で悩んだ。激しく議論をした。そして祈った。そして、その度に皆で悩んだ。激しく議論をした。そして祈った。そして、その場に立ち続けると言っている。

そして、その度に、不思議と新しい道が拓かれて来たのである。そして、その度に、不思議と新しい道が拓かれて来たのである。

### 教区 コラム

先日も教区内の互助の意見をまとめる会があり、互助の課題について話し合った。互助を受けながら伝道に専念する教師が言われた。

「よく、伝道の最前線のお働きを感謝します。伝道の実りは簡単には与えられないでしょう。しかし、そこに立ち続けて下さい」といふような励ましは有り難い。しかし、その場に立ち続けると言っている。

たという感動を味わっている。それに対して、自分の家族は、反対ばかりで、何も聴いてくれないとの絶望感があり、それが説得を阻害している。相談者は、カルトに誘われる相対者に、次々に訪れる相談者にカウニングがどのようになされるかの実地体験を夕方まで続けた。初めて被害者と体面して緊張した者もあつたが、皆一様に、被害の深刻さを知り、この救出活動に参加していきたいとの決意が与えられた。有益な会になったことを感謝する。

(山本裕司報)

## 新しい総会期も部落解放運動に力を注ぐことが確認される

### 部落解放センター

第36総会期第一回の部落解放センター運営委員会が一月二七日午後から二八日にかけて、教団四階会議室で開催された。

出席者は、陪席者をおわけて三名、新しく選出された委員のもと、共に部落解放への熱意を確認し、二日間わたつた協議を行った。



部落解放センター運営委員会 全国から31名出席。共にがんばろう。

また、黒鳥栄牧師(戸塚教会)も、カウニングの秘訣とは 聴くことに尽きると強調した。被害者は、カルトに行つて、自分の話を初めて聴いてもらえた。

参加者より、現在は世界的にスピリチュアリティ(ニューエイジ)に浸食されておられ、癒しの強調という形で教会の中にも入っている。カルト問題に

### 第36総会期 第一回年金局理事会

第36総会期第一回年金局理事会が一月三〇日(金)開催された。最初に高橋豊理事長を選任、引き続き 齋田安晴副理事長、池田浩二、中林克彦、正田國麿の各常任理事を選任、内藤留幸総幹事を含め六名の常任理事会メンバーを選任、書記は池田常任理事が担当、また、常任理事会の下に設置されている資産運用と制度検討の各諮問委員会は夫々、齋田副理事長と中林常任理事が担当し、外部の専門家を含む体制で引き続き行っていくことを承認した。教区代表理事のリストは、教団新報第四六七号をご参照ください。

また、今年度から財政規模の大きい東京教区が五支区代表を指名し、支区の教団年金の活動を強化して行くことになった。五名の内、年金局理事・監事でない二人は陪席者として理事会に出席願うことを承認した。

新しい体制の下、祈り、知恵を絞りながら、教団年金を守りぬくよう一同認識を新たにしたい。

(櫻井淳子報)

### 消息



田中嘉雄氏(隠退教師)

一月二八日、逝去。八三歳。東京都に生まれる。一九六〇年日本聖書神学校卒業後、本所教会に赴任。その後六年から教団総務局に教務教師として勤務し、六二年から九五年まで松代

### 事務局報

教会所在地名変更  
御影 神戸市東灘区御影郡 家一三三十九  
東神戸 神戸市東灘区御影 三二七十一  
訂正 4669号3面事務局報欄、甲西伝道所住所「湖西市」を「湖南市」にお詫びし訂正いたします。



# 献身のとき

NOOSHINKI  
KENSHIN



飯塚拓也(電ヶ崎教会牧師)

No.2

私の献身は、牧師であった父の死がきっかけです。私が高校三年の終わりの頃に、父は直腸癌が見つかって手術を受けました。当時、告知はまだ一般的ではなく、父にも特に病名は知らせていませんでした。けれど、父は知っていたようで、僕は癌に勝つた」と退院後親しい人に話っていました。二年後に癌が再発し再入院となりましたが、癌が全身に転移し手の施しようがなく、約半年の病院生活の後に天に召されました。

この再入院の期間は、母が教会と付属幼稚園を守り(岐阜県の農村教会でした)、大学受験に失敗し名古屋で浪人中だった私が父の世話をすることとなりました。癌センターへの入院でしたので、昼過ぎに病院に行くと、夜に下宿に帰る毎日でした。当時は病状が重くなる二人部屋に移ったのですが、夜に病院を後にして翌日行く、隣の方が変わっていることがありました。それは、自分が癌であることを知る者には、残酷な現実でした。「もし、自分だったら」と、ベッドに横になっている父を見ながら

考えたものです。どうせ死ぬなら家に帰りたいと叫ぶだろうし、人生への未練や神さまへのうらみの一つくらいあって当然だろうと思いましたが、けれども、父はそのようなそぶりは全くなく、むしろ死ぬ時が近づけば近づくほど、文字通り「幼子のような瞳」となっていたのです。「平安」がベッドを包んでいました。ある時に、思い切ったこう尋ねました。「これでよかったの?」この問いには、私の子どもの頃からの心の叫びが含まれていました。父は農村教会の牧師で、文字通りの田舎牧師でした。手ぬぐいを腰からぶら下げ、土の匂い・汗の匂いが父の匂い。農繁期の日曜日には誰も礼拝には来ないと分かっていた。説教を準備し、母と二人の礼拝を守る人でした。素朴で器用な牧師で、富も名声も求めない人でした(家族としては、富も名誉も少しは求めて欲しかったのです)。ですから、「どうして神さまはこんな形で父の人生を終わらせようとするのか」と私には納得がいきませんでした。何より父はどう思っているのかをどうしても聞いておきたかったのです。私の問いに対して、父は確かにうなずきました。言葉はありませんでしたが、このうなずきは、「これでよかった」と語っていました。私は、後ろから思いっきり頭を殴られた気がしました。目が覚めたというのでしょうか、「父が見ているもの」に気付かされた



私の家内、私の母

## 「父が見ているもの」に気付かされ

## 隠退教師を支える運動 中部教区愛知東地区 推進座談会報告

二月十五日(日)午後、岡崎教会を会場に中部教区愛知東地区推進座談会が開催されました。この会の開催について杉本誠地区会長(西尾教会牧師)に相談したところ、快く引き受けてくださり、地区の集会などで諸教会・伝道所の出席が薦められました。また岡崎教会は会場を快く提供してくださいました。地区の配慮に支えられ、開催することができたことを、心より感謝いたします。参加教会六教会、参加者は三名(推進委員二名を含む)でした。讃美歌21五〇五を賛美、聖書テモテ一(二章一〜三節)を朗読、大杉弘委員長が開会のお祈りを捧げました。大杉委員長は挨拶と「支える運動」の原点とこれまでの歩み、そして現在の運動方針等を説明、質疑応答へと進みました。話し合われたことは概ね次のようなことでした。既に参加している教会からは、この献金が隠退された先生方に直接届けられると思っ

# ひととき

網中彰子さん

## 正しいみ言葉を求めて



1968 年生まれ。ペテル教会牧師。

「み言葉が正しく宣へ伝えられていない。平和の世紀の希望が文字通り音を立てて崩れていったあの九・一一。神の名が騙られ、人が殺されていくあの事件を目の当たりにしながら、網中さんは、み言葉の無さを見た。取り次ぐ者がいなければ。小中高を過ごした東洋英和女学院時代、命はどこから来たんだろう(そしてどこへ)という問いから、中学三年の時に神様を求めて聖ヶ丘教会へ。半年あまり後に受洗。高校時代は牧師になろうと、真面目に伝道のことを考えた。当時の宗教主任の先生に、牧師になるためには何が必要ですか」と尋ねたところ、「召命感です」と返され、「そうか、それでは神様が必要としてその年には教団総幹事

「教会史」の編纂が進められている最中に着任したので、その作業に加えられることになった。この教会の歩みを深く知る機会を得たのである。専ら書かれた原稿を読み、文章の推敲や校正を共にして、先達の働きや苦勞に出会っていく。教職や宣教師、信徒の方の名前を覚えながら、神様の不思議な御業に驚き、感謝に満たされる時を持った。しかし、前史の中で原主水を始めとする17世紀の駿府キリシタンの出来事も同時に教えられたのである。実は先日、市内キリスト教連絡会の席で駿府キリシタンの殉教について方

## 約束の時に向かって

トリックの司祭から話を聞く機会を得た。その話によれば、一六四四年伴天連追放令から一六三二年駿府最後のキリシタン五名の処刑まで、(文書の記録がないので言い伝えによる)御自分の業を進められること、教会を再臨の時へ導かれることを教会史編纂作業を通して深く教えられ。命の書に名を記された多くの先達と共に主の約束に与る将来、そこに日々の現実を歩む私共の希望と謙遜また伝道の喜びが育まれていく。(教団総会副議長 佐々木美知夫)

- ◆公募・高校生以上◆
  - ① ミッション 21、アジア青年会議及びアジア部会総会
    - ◎日程 5月17日? 24日
    - ◎場所 サバ(マレーシア)
    - ◎主題 平和の源としての宗教
    - ◎費用 ミッション 21 負担
  - ② 台湾ミッション 2009 / 国際青年会議
    - ◎日程 6月30日? 7月17日
    - ◎年齢 35歳まで
    - ◎費用 航空運賃半額負担
- 締切 / 4月17日  
問い合わせ / 世界宣教部 (03) 3202-0544